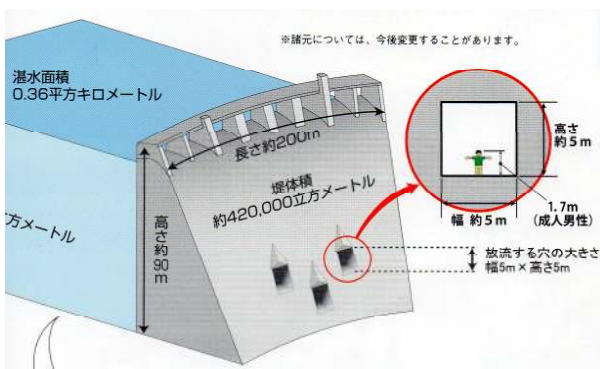


立野ダムをつくってはならない理由

立野ダムによらない自然と生活を守る会 <http://stopdam.aso3.org>

連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康 電話 090-2505-3880

●洪水時、立野ダムの穴が流木や土砂でふさがり、洪水調節できなくなります！



穴のサイズは、幅5m×高さ5m

立野ダムは、白川上流の阿蘇・立野峡谷に国土交通省が計画した、高さ90mの洪水調節専用の「穴あきダム」です。立野ダムには、ゲートのない3つの穴がダムの下のほうに開いていますが、その幅は5mしかありません。しかも、穴の内部に流木や岩石などが入らないように、ダムの穴の上流側はすき間わずか20cmのスクリーン（柵）で覆われます。これでは洪水時にダムの穴は、明らかに流木などでふさがります。

洪水のときにダムの穴がふさがったら、洪水を下流に流すことができず、ダムは短時間で満水になってしまいます。九州北部豪雨のような洪水では、立野ダムは1時間あまりで満水となります。ダム下流の洪水流量は、0から一気に最大に上昇します。

しかも、流木の撤去は不可能です。立野ダムは災害をひきおこします。

●熊本地震で、立野ダム水没予定地周辺の大半が崩れました。立野ダムは大きな災害源となります！



地震とその後の大雨で、立野ダム建設予定地の両岸は大きく崩壊し、ダム水没予定地周辺の大半が崩れました。国土交通省によると、立野ダム水没予定地には熊本地震による土砂崩壊で50万 m^3 の土砂がたまっており、計画通りダムが機能するには30万 m^3 の土砂を掘削する必要があるそうです。10トンダンプで5万台分もの土砂を運び出し、処分する必要があるのに、トラックや重機が下りていく道路がつかれません。

下りることができないので、大半が土砂崩壊したダム水没予定地の崩壊斜面をコンクリートで固める等の土砂崩壊対策工事もできません。ダムの水位が上がれば、立野溶岩の表面に堆積した火山性堆積物が崩れ、**湛水(たんすい)地すべり**が発生するのは明らかです。大雨などでダムに水がたまった状態で斜面の崩壊があった場合、ダム湖に津波が発生し、ダムの水があふれて大惨事になる危険性もあります。このような場所に高さ90mもの巨大なダムをつくれれば、次の世代に大きな災害源を残すことになります。

●国土交通省の「立野ダム建設に係る技術委員会」による検証も極めて不十分です。

昨年夏に国土交通省が設置した技術委員会は、わずか3回の会合で、同省の「立野ダム建設は技術的に可能」との見解をそのまま認めてしまいました。仮にダム本体建設が「技術的に可能」でも、まわりの地盤が壊れたら機能しなくなるし、危険です。その後も、国交省は住民の質問状に回答せず、住民への立野ダム説明会も一度も開きません。

●河川改修で白川の流下能力は大幅に向上し、立野ダムを建設する必要はありません。

国交省が情報開示した
熊本市・藤崎宮地点の白川の流下能力
(白川河口より14km地点右岸)



改修前:
毎秒1748トン
(九州北部豪雨では洪水が氾濫)

改修後:
毎秒3630トン
(川幅が広がり高さ2mの堤防も完成)

国土交通省が情報開示した資料によると、2012年の九州北部豪雨の後、河川改修で熊本市内の白川は川幅が広がり、高さ2mの堤防も完成したことで、改修前と比べ各地点で毎秒1000~2000トン程度余計に洪水を流すことができるようになりました。これまで水害被害を受けていたのは、河川改修が完成していなかった地区だけです。

一方で、立野ダムの洪水調節能力は、ダムが計画通りに機能しても、わずか毎秒200トンです。大半が土砂崩壊した立野ダム水没予定地を見ると、ダムを造れたとしても機能しないことは明白です。立野ダムより河川改修を進めるべきです。

●国立公園の特別保護地区を水没させ、天然記念物・北向山原始林を破壊するダム

立野ダムは、阿蘇くじゅう国立公園の36ヘクタールもの広大な自然を水没させます。立野ダム建設予定地は、現状変更行為が許されない阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地区にあり、国の天然記念物である北向谷原始林の一部も水没します。

●917億円(県民1人あたり1万5000円)の立野ダム事業費が、今後大幅に増えることは明らかです！



立野ダム(計画中)
○国営、高さ90m
○治水専用の穴あきダム

今後も立野ダム建設を続けた場合、917億円の立野ダム事業費が、地震によるダム建設現場の復旧や地すべり対策、資材費の高騰などで大幅に増えることは明らかです。今年度の立野ダム事業費は48億円。南阿蘇鉄道復旧には70億円が必要と報道されています。限られた国家予算は、立野ダム建設よりも熊本地震の復興に投入すべきです。

立野ダムは、白川流域の安全を守るどころか、危険をもたらすダム計画です。安全で豊かな白川を未来に手渡すためには、河川改修こそを進めるべきです。

(2017年5月28日作成)